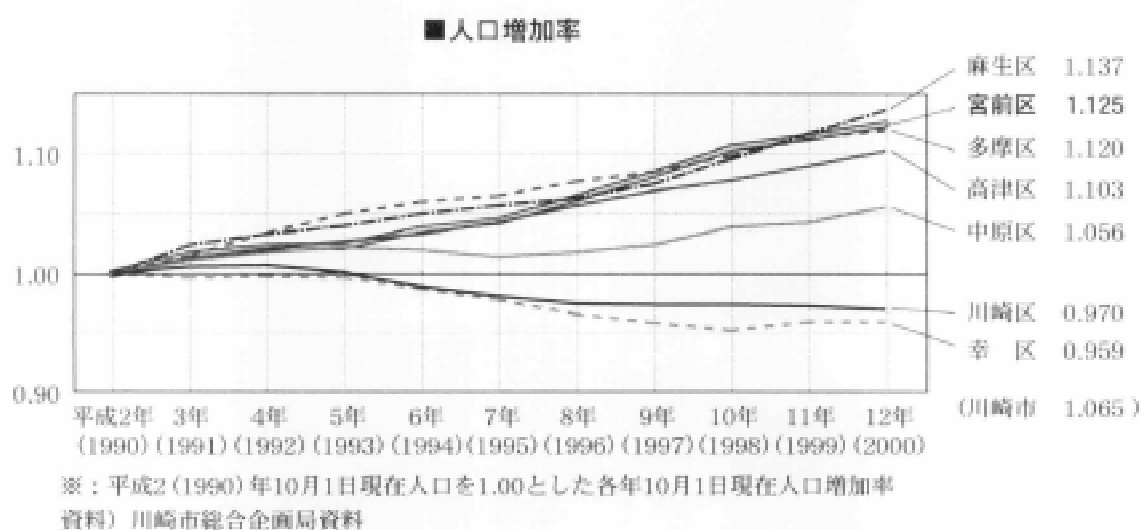
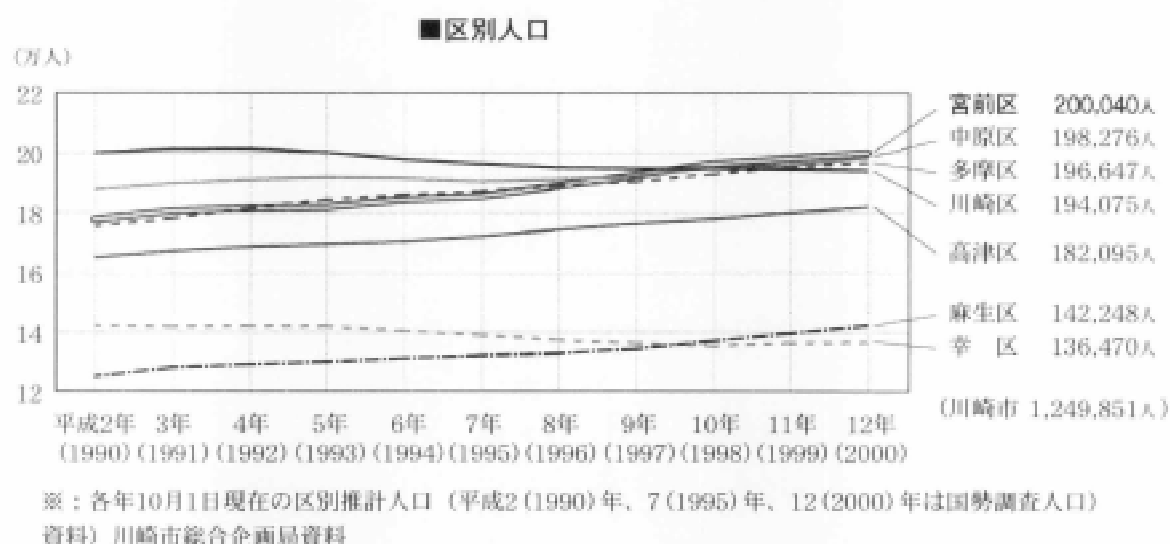


(3) 人口等の状況

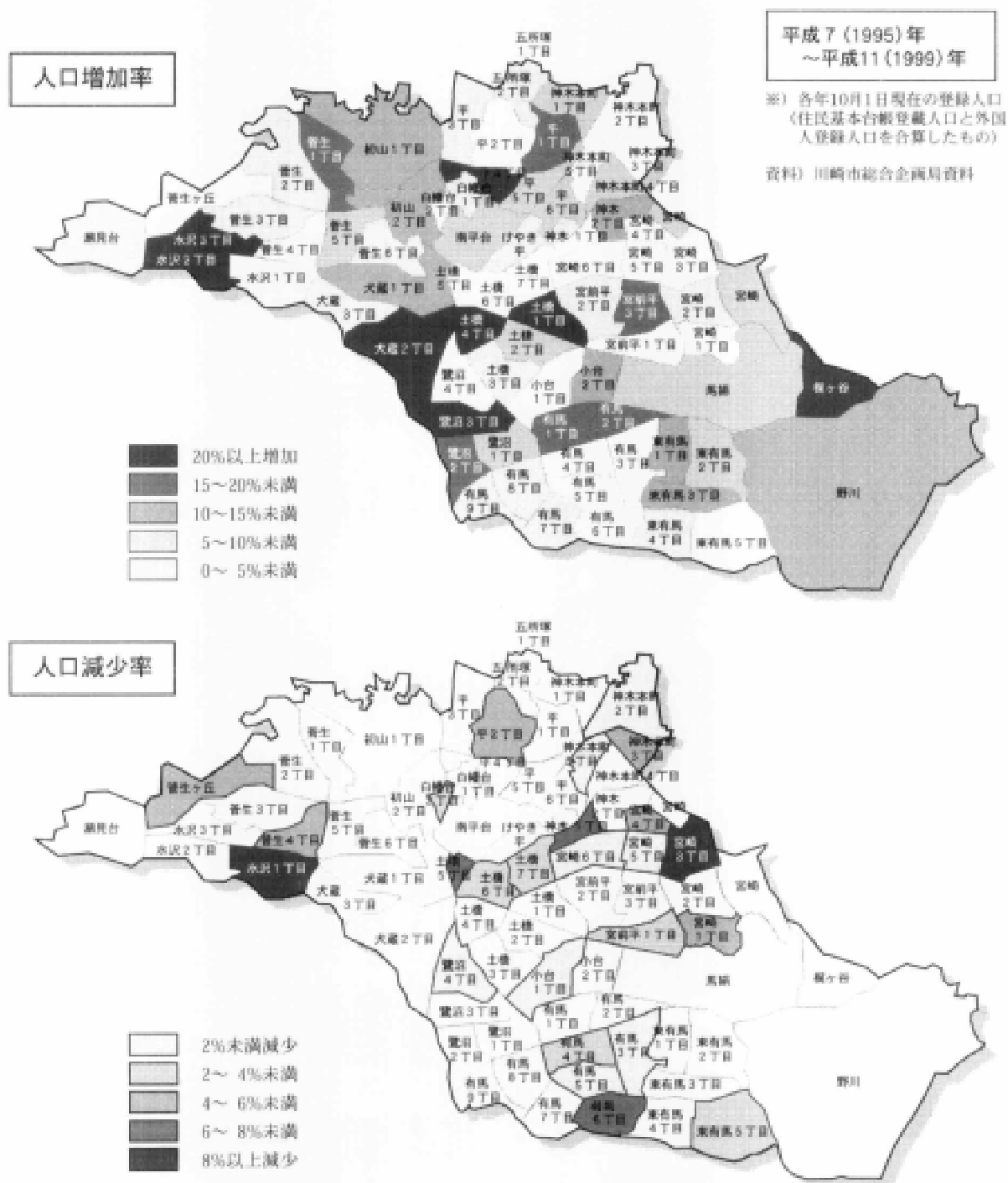
① 人口の推移

- ・ 宮前区の人口は、年々増加傾向にあり、平成12（2000）年10月1日現在の人口は、200,040人であり、川崎市の7区のうち、最も人口の多い区となっています。なお、宮前区の人口は、川崎市の総人口の16.0%を占めています。
- ・ また、平成2（1990）年から平成12（2000）年までの最近10年間における宮前区の人口増加率を平成2（1990）年10月1日を基準としてみると、平成12（2000）年では平成2（1990）年の1.125倍となっており、これは麻生区に続き2番目の増加率になっています。



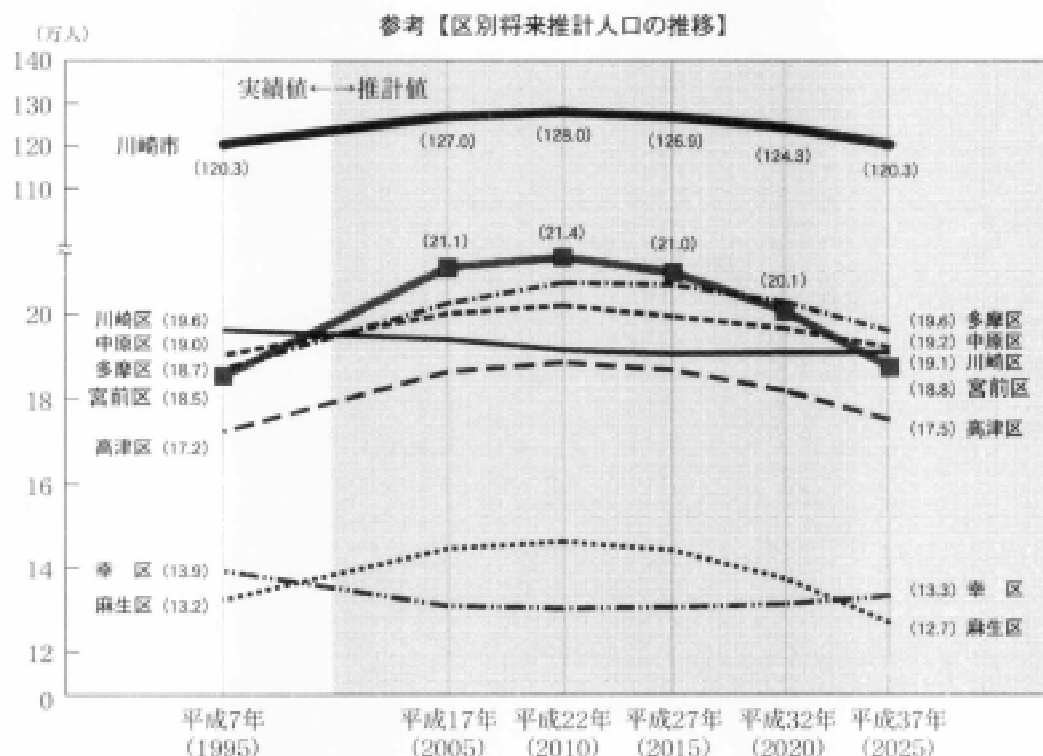
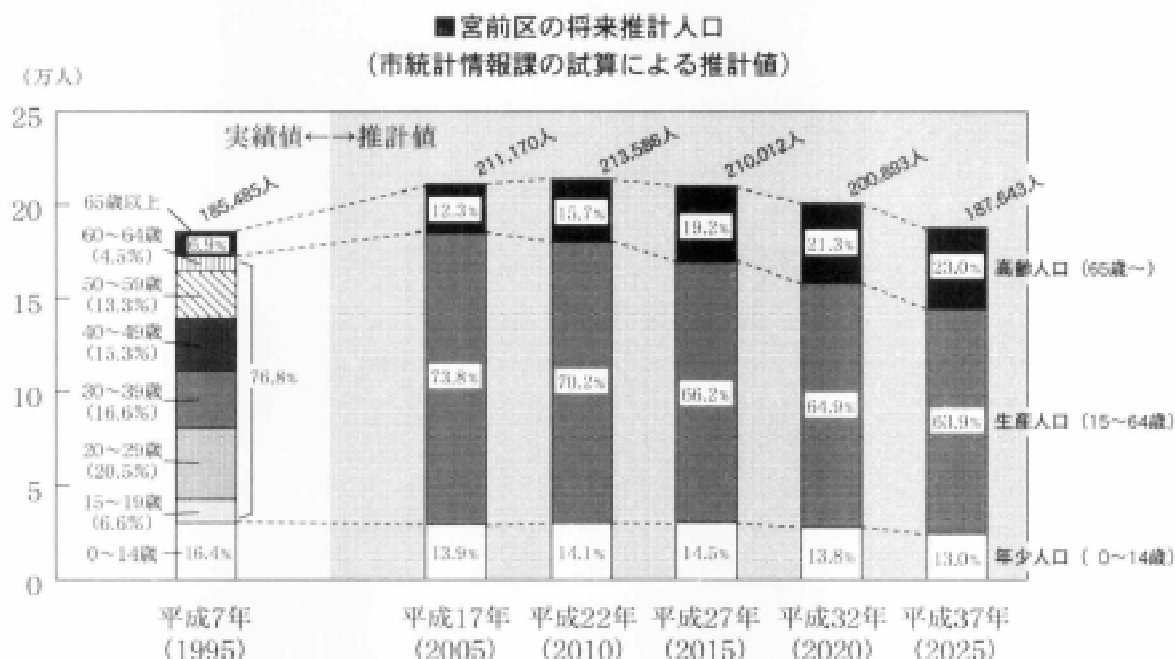
② 町丁別人口増減率

- ・宮前区における平成7（1995）年～11（1999）年の4年間における町丁別人口動向をみると、下図のとおりになっています。
- ・田園都市線からやや離れ、農地や樹林地が残っていた地区などで新たな宅地開発等による人口増加がみられる反面、田園都市線沿線の土地区画整理事業により整備された住宅地などにおいて人口の減少がみられます。



③ 将来人口の推計

- ・川崎市総合企画局都市政策部統計情報課の試算によると、宮前区の将来人口は以下のよう
に推計されており、宮前区の人口は今後10年程人口が増え続け、平成22(2010)年の213,586
人をピークに減少に転じると推計されます（全国推計値は平成19(2007)年がピーク）。
- ・また、平成7(1995)年に6.9%だった高齢者人口率は、平成37(2025)年には23.0%まで
上昇し、約4人に1人が高齢者という高齢社会になると推計されています。

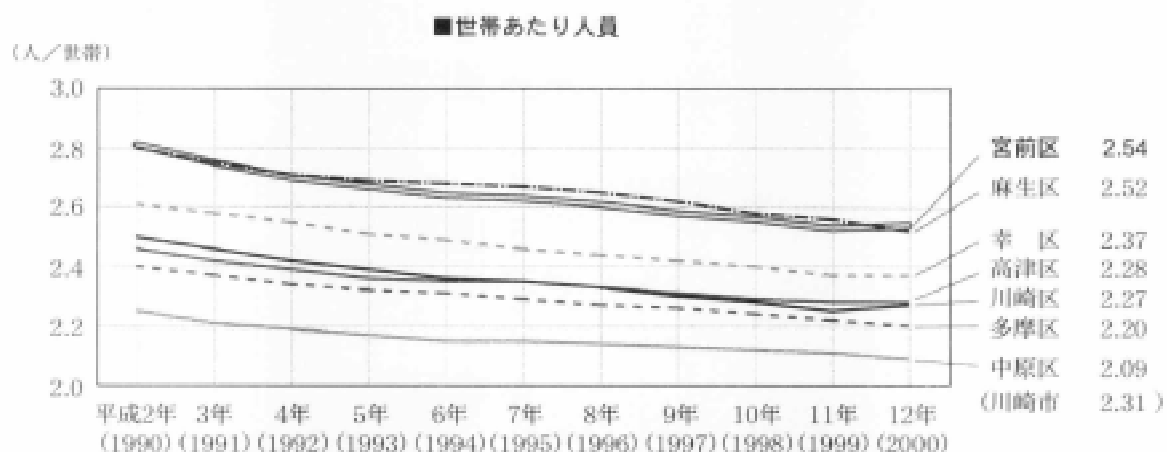


資料) 平成7(1995)年国勢調査

平成17年以降の推計値は、川崎市総合企画局都市政策部統計情報課の試算による。

④ 世帯人員の推移

- ・ 宮前区の世帯あたり人員は、年々減少傾向にあるものの、平成12（2000）年10月1日現在で2.54人／世帯であり、川崎市内の7区の中で最も高くなっています。
- ・ これより、宮前区には、ファミリー世帯等の比較的世帯規模の大きな世帯が多く居住していることがわかります。



※：各年10月1日現在人口・世帯数より算出（平成2（1990）年、7（1995）年、12（2000）年は国勢調査人口・世帯数）

資料）川崎市総合企画局資料

Ⅱ－２． 宮前区の将来像と都市構造

(1) 宮前区の将来像 ～ガーデン区～

宮前区の将来像については、平成８年度に策定された「宮前区区づくりプラン」で、『ガーデン区』をめざすものとされており、都市計画マスタープラン宮前区構想の策定にあたっては、この考え方を受け継ぐこととします。

宮前区のキャッチフレーズは

人が好き 緑が好き まちが好き

- ・コミュニティ豊かな区民の和を象徴する「人」
- ・豊かな自然を象徴する「緑」
- ・自然と区民の生活が調和する豊かな地域を象徴する「まち」

ガーデン区構想とは

- ・区づくりプランでガーデン区は、宮前区をベッドタウンとして平凡なふつうのまちと位置づけ、しかし、ただのふつうのまちではなく、宮前区らしい特色のあるまちに変えていくことが大切であるとしている。
- ・香り高い文化、福祉の充実、交通の利便性などは、それぞれ、ごく当たり前のふつうのことであるはずであるが、そのふつうがなかなか実現されない。
- ・ふつうを実現することが宮前区らしい特色のあるまちに変えていくことに繋がるととしている。

「ガーデン区」は、以下のようなものである。

家 庭や住まいから隣近所、それからまち全体へと、“点”から“線”へ、そして“面”へと発展していくような、まちの人たちがまち全体を「ガーデン区」としてとらえ、楽しめるまち。

だ れもが仲良く、和気あいあいと楽しく暮らせる人と人のつながりがあり、豊かなコミュニティとそのための集いの場が身近にあるまち。「ガーデン区」では、お祭りも行われる。

だ れもが健康的で心豊かに地域の人とともに暮らせるまち。そのために、歩いて行けるところに病院や福祉施設があり、福祉システムが整っている。

だ れもが自由に出かけることができる。バスや鉄道など交通の利便の良いまち。

市 民自らが主体的に行動し、ときには市民の間で議論しながら、より良い社会・まちをつくりだす人のいるまち。

人 と人の助け合いが重んじられ、災害のときの対策が取られており、安心して住むことができるまち。

残 された自然や恵まれた環境資源を豊かに活かして、人々が心豊かな生活を送れるように、土地の利用についてビジョン、マスタープランをもったまち。

～以上、区づくりプランから～

(2) 宮前区の都市構造

宮前区の都市構造を、「緑と水」「人・ものの交通」「歴史・文化・コミュニティ」の視点から整理すると次のようになります。

① 宮前区の「緑と水」をかたちづくる要素

- ・ 宮前区の「緑と水」をかたちづくる要素としては、「緑の拠点」と「緑・水の軸」があると考えられます。

■ 緑の拠点

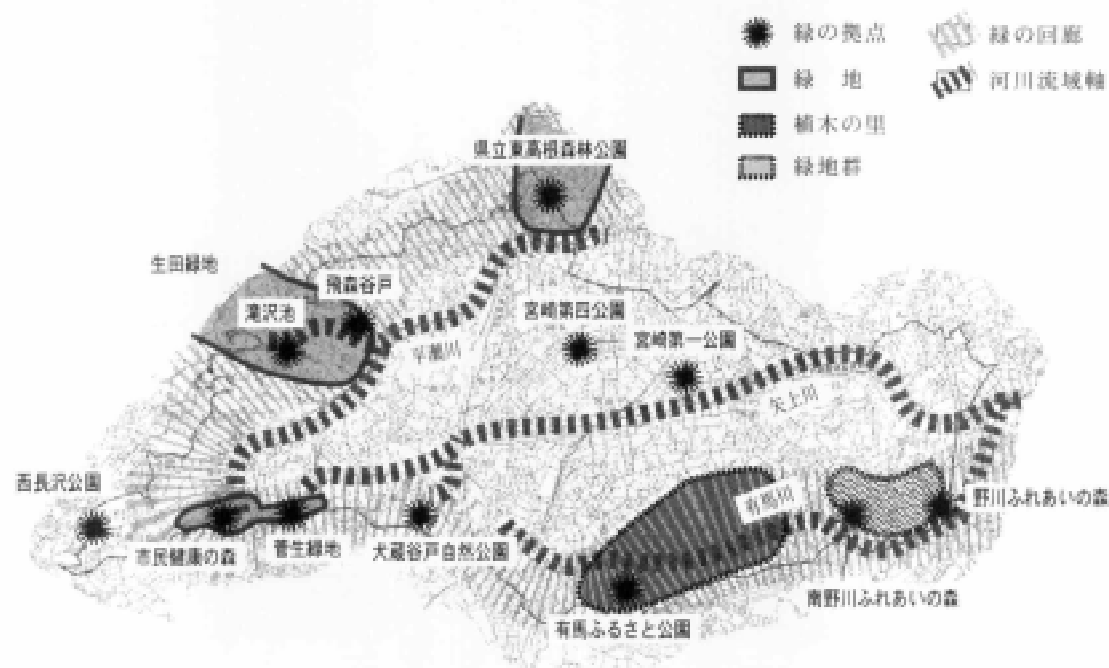
緑の拠点は、「大規模な緑地等」と「市街地の中の緑の拠点」に分類されます。

- 大規模な緑地等 : 生田緑地、東高根森林公園、植木の里、野川緑地群
- 市街地の中の緑の拠点 : 野川ふれあいの森、南野川ふれあいの森、有馬ふるさと公園、宮崎第一公園、宮崎第四公園、菅生緑地（市民健康の森計画地を含む）、西長沢公園など

■ 緑・水の軸

緑・水の軸は、「緑の回廊」と「河川流域軸」に分類されます。

- 緑の回廊 : 宮前区の区界を走る尾根線に沿って、「野川～有馬～水沢～生田緑地～東高根森林公園」とつながる斜面緑地等の連なりを『緑の回廊』と位置づけます。
- 河川流域軸 : 宮前区を流れる「平瀬川」「矢上川」「有馬川」の3本の『河川流域軸』を『緑の回廊』と並んで宮前区の緑と水を構成する軸と位置づけます。



② 宮前区の「人・ものの交通」をかたちづくる要素

- ・現在、宮前区の「人・ものの交通」をかたちづくる要素のひとつに、鉄道軸としての田園都市線があり、人は田園都市線各駅及び一部南武線、小田急線に向かうバス路線を利用して移動しています。また、道路軸としては、国道246号と尻手黒川線があり、これらは長距離輸送と近距離輸送が幅輻した状態で利用されています。
- ・将来の宮前区では、川崎縦貫高速鉄道の開通などを踏まえて、これらの要素が「広域的な移動軸」と比較的近距离移動を目的とする「区民の移動軸」に変わるものと考えられます。

■ 店域の左移動軸

広域的な移動軸は、「鉄道を利用した交通」と「自動車を利用した交通」に分類されます。

- 鉄道を利用した交通 : 田園都市線や川崎縦貫高速鉄道を利用した人・ものの流れです。
- 自動車を利用した交通 : 東名高速道路から区内に流入する人・ものの流れ、尻手黒川線、国道246号を利用した人・ものの流れです。

■ 区民の移動軸

区民の移動軸は、「広域的な移動軸」から区内の各所に至るための移動軸であり、「駅勢圏の交通」と「バス停勢圏の交通」に分類されます。

- 駅勢圏の交通 : 徒歩による、田園都市線や川崎縦貫高速鉄道の駅を中心とした同心円上に広がる人・ものの流れです。
- バス停勢圏の交通 : バス輸送による、区内の駅と他区の駅を結ぶような比較的長距離の人・ものの流れです。



③ 宮前区の「歴史・文化・コミュニティ」をかたちづくる要素

- ・ 宮前区の「歴史・文化・コミュニティ」をかたちづくる要素としては、「商業・業務拠点」と「文化・コミュニティ拠点」があると考えられます。

■ 商業・業務拠点

商業・業務拠点は、「商業拠点」と「業務拠点」に分類されます。

○ 商業拠点 : 「鷺沼～宮前平～宮崎台」の田園都市線沿線に中心地区が形成されており、特にこの3駅の中でも商業集積が進んでいる鷺沼駅を商業拠点と位置づけます。

○ 業務拠点 : 中央卸売市場北部市場と梶ヶ谷貨物ターミナル地区を業務拠点と位置づけます。中央卸売市場北部市場は、生鮮食料品や花卉の供給基地として、周辺土地利用との整合を図り、地域へも貢献する流通拠点として位置づけます。梶ヶ谷貨物ターミナルは、高度情報化の進展等にあわせ、自動車・貨物鉄道との結節点という立地条件を活かした産業拠点として位置づけます。

■ 文化・コミュニティ拠点

文化・コミュニティ拠点は、市民の文化・コミュニティを醸成する拠点として、宮前区役所・市民館や市民館管生分館、現在事業中の宮前スポーツセンター、計画中の有馬・野川市民館・図書館分館が挙げられます。



以上より、宮前区の都市構造を整理すると、次ページのとおりとなります。